



2021年12月期 決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月14日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <https://www.greenland.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理室長 (氏名) 佐伯賢二

TEL 0968-66-2111

定時株主総会開催予定日 2022年3月30日

配当支払開始予定日

2022年3月31日

有価証券報告書提出予定日 2022年3月30日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期の連結業績(2021年1月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	5,754	24.6	34		202		1,477	
2020年12月期	4,616	44.8	461		348		633	

(注) 包括利益 2021年12月期 1,478百万円 (%) 2020年12月期 652百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年12月期	142.89		15.1	1.0	0.6
2020年12月期	61.29		5.8	1.6	10.0

(参考) 持分法投資損益 2021年12月期 百万円 2020年12月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期	19,465	9,055	46.5	875.96
2020年12月期	21,195	10,554	49.8	1,021.00

(参考) 自己資本 2021年12月期 9,055百万円 2020年12月期 10,554百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年12月期	950	194	541	691
2020年12月期	624	191	941	476

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年12月期		0.00		0.00	0.00			
2021年12月期		2.00		2.00	4.00	41		0.4
2022年12月期(予想)								

(注) 2022年12月期の業績予想を未定とすることから、配当予想額につきましても未定とします。

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

2022年12月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの新たな変異株による感染の急拡大を受け、2022年1月にまん延防止等重点措置が九州各県で適用となり、不要不急の外出・移動の自粛要請、飲食店等への営業時間短縮要請やイベント等の開催制限がある中、消費者の行動や意識の変化を含めて、現時点では適正かつ合理的な算定が困難であるため、未定としております。

今後の動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期	10,346,683 株	2020年12月期	10,346,683 株
期末自己株式数	2021年12月期	9,260 株	2020年12月期	9,260 株
期中平均株式数	2021年12月期	10,337,423 株	2020年12月期	10,337,423 株

(参考)個別業績の概要

2021年12月期の個別業績(2021年1月1日～2021年12月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	3,978	34.9	292		319		1,995	
2020年12月期	2,949	44.3	111		63		127	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期	193.05	
2020年12月期	12.35	

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期	17,895	9,681	54.1	936.51
2020年12月期	18,729	11,698	62.5	1,131.70

(参考) 自己資本 2021年12月期 9,681百万円 2020年12月期 11,698百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、添付資料p.5「1.経営成績等の概況 (1)経営成績に関する分析 2)次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	7
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	8
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	10
4. 連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(追加情報)	18
(連結損益計算書関係)	18
(セグメント情報等)	19
(1株当たり情報)	21
(重要な後発事象)	21
5. その他	22

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、前年に引き続き、全国各地で新型コロナウイルス感染症の流行に伴う断続的な緊急事態宣言発出やまん延防止等重点措置の適用がなされたほか、書き入れ時のお盆期間には、西日本を中心とした集中豪雨に見舞われるなど、依然として厳しい経営環境でありました。

一方で、屋外型レジャーとして人気が高いゴルフ事業が好調に推移し、また、ワクチン接種が進むにつれて、新型コロナウイルス感染症の落ち着きが見られた10月初め頃から年末にかけては、九州の遊園地では、団体客を中心に客足が大幅に増加するなど、業績回復に向けての明るい材料もありました。

以上により、当連結会計年度の業績につきましては、売上高5,754,115千円（前期比1,137,246千円増）、営業利益34,981千円（前年同期は461,933千円の損失）、経常利益202,850千円（前年同期は348,149千円の損失）となりましたが、九州のホテル事業に関する固定資産の減損損失を計上したことに伴い、親会社株主に帰属する当期純損失は1,477,157千円（前年同期は633,537千円の損失）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	5,754,115	4,616,869	1,137,246	24.6
営業利益	34,981	△461,933	496,914	—
経常利益	202,850	△348,149	550,999	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,477,157	△633,537	△843,619	—

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、開園55周年目を迎えるにあたり、オリジナルキャラクター「遊戦士グリランダー」を制作し、来園特典シールの配布やWEBでのPR展開を行うなど、様々な形でメモリアルイヤーを盛り上げました。

春のイベントにつきましては、まず、TVアニメ「約束のネバーランド」との西日本初のコラボイベント「グリーンランド農園に潜入せよ」を開催し、園内ラリーイベントのほか、アトラクションやレストランメニューとのコラボレーション展開により、本作品の世界観を存分に体験していただきました。

また、グリーンランド名物の巨大屋外ステージ「グリーンスタジアム」では、大人気の仮面ライダーセイバーを主演とした「仮面ライダーセイバー スペシャルショー」を開催し、多彩な演出によるアクション満載の大迫力のライブショーを繰り広げました。

夏のイベントにつきましては、7月10日に、花火大会「さのよいファイヤーカーニバル2021」を開催したほか、「仮面ライダーセイバー」をはじめとするキャラクターショーのほか、人気お笑いグループ「ハナコ」によるお笑いライブステージを開催いたしました。

そのほか、開園55周年を記念して、オリジナルキャラクター「遊戦士グリランダー」をテーマとしたラリーイベント「グリラのミッション55 ～グリランダーからの任務を遂行せよ～」を展開し、開園記念日の7月23日には、55歳のお客様限定で遊園地に無料ご招待する特別企画を実施いたしました。

秋には、最近ブームを起こしている俳句をテーマとしたイベント「I K K Uグランプリ～グリーンランドで一句～」を展開したほか、「仮面ライダーリバイス」や「鬼滅の刃」など人気のキャラクターショーを多数開催いたしました。

そのほか、8,000発の花火の一気上げで好評な花火大会「タマホームスペシャル花火物語」については、10月と12月の2回開催し、全国的に有名な花火師による芸術玉を交え、多彩な花火で夜空を飾ったほか、2年ぶりの開催となった年越しイベント「カウントダウン2022」では、花火を2部構成で展開し、新年を迎えました。

アトラクションにつきましては、春期間限定のアトラクションとして、巨大エア遊具「BIGエアプレイルンド」を設置し、7月には新規アトラクション「バン！バン！！バズーカ」を導入いたしました。また、夏休みには、期間限定で「世界のカブトムシ展」や「VR・ARパーク」を展開したほか、2年ぶりに、大型プール施設「ウォーターパーク」を営業いたしました。

そのほか、ご入園の際の検温、消毒の実施はもちろん、電子チケットの販売促進やアトラクションフリーパスの年齢による料金区分への見直しなど、お客様がスムーズにご入園いただけるように努め、また、アトラクションご利用や各種イベントご観覧の際につきましても、安心してお楽しみいただけるよう、十分な感染予防対策に取り組

んでまいりました。

このように様々な取り組みを行い、利用者数につきましては、緊急事態宣言ならびにまん延防止等重点措置が解除された10月からは、個人客ならびに修学旅行等の団体客が大幅に増加するなど、ゴールデンウィークを中心とする春の行楽シーズンに臨時休園した前期を大きく上回りましたが、通年における新型コロナウイルス感染症の影響に加え、夏休み期間の天候不良の影響も大きく、十分な回復には至りませんでした。

以上の結果、利用者数は、前期比190,333人増加の581,059人、売上高は前期比771,355千円増加の2,569,780千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、スキースクールなどの各種団体にキャンセルが見られたほか、12月のスキー場オープンが例年より遅れたことにより、来場者数は減少いたしましたものの、年初の売上が好調だったことで、売上高は前期を上回りました。

『北海道グリーンランド遊園地』につきましては、まず、4月のオープンより「仮面ライダーセイバー」、「トロピカル〜ジュ!プリキュア」、「機界戦隊ゼンカイジャー」など、最新のキャラクターショーを開催したほか、10月には、「いわみざわ公園花火大会」を2年ぶりに実施し、集客の拡大を図りました。

そのほか、人気ユーチューバーとコラボレーションした動画を配信して、幅広い層に対して、遊園地の魅力を十分にPRいたしました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、恒例の大型音楽イベント「JOIN ALIVE」をはじめ、目玉となる集客イベントの開催を見合わせたこともあり、思うように利用者数を伸ばすことが出来ませんでした。

また、『いわみざわ公園管理』におきましては、開放的なレジャーとしてキャンプ場やパークゴルフ場の魅力を発信し、『バラ園』でのローズツアーの実施や、『色彩館』における二胡をはじめとする中国楽器のコンサート実施など、特色あるイベント開催で集客を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に札幌市内など都市部からの客足に影響を受け、利用者数は伸び悩みました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前期比14,868人増加の132,811人となり、売上高は前期比77,307千円増加の584,717千円となりました。

以上の結果、利用者数は前期比205,201人増加の713,870人となり、売上高は前期比848,662千円増加の3,154,497千円、営業利益につきましては前期比275,177千円増加の382,751千円となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、密になり難いスポーツとしての認識が高まり、ゴルフプレーは高い人気を保ってまいりました。

当社グループにおける3つのゴルフ場では、徹底した感染予防対策に努めるとともに、万全なコース整備とコース改良に注力し、より一層快適なプレー環境づくりに取り組んでまいりました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、開場から55周年を記念したゴルフコンペを開催したほか、「女性スタッフが挑戦ゴルフコンペ」など、特色あるイベント開催により、幅広い層の集客を図りました。また、パブリックゴルフ場としての気軽さとナビゲーションシステム付ゴルフカートの強みを活かし、近年、拡大傾向にある若者層のゴルファー獲得を図りました。

また、女性用ティーイングエリアの新設及びショートホールのティーイングエリアの改造などのコース改良を行うことで、各プレーヤーの楽しみ方を広げたほか、友の会会員用ロッカーの拡充や練習場の改修を行うなど、着実にピーターづくりに注力いたしました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースにおきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸切りや大型のコンペの減少はありましたものの、メンバーによるビジター同伴プラン促進のほか、小規模なコンペの獲得に向けたプレープランの造成等に取り組み、若年層や女性といった新たな個人客やグループを中心に利用拡大を図りました。

そのほか、コースの拡張工事やセルフカートのコース内乗り入れ環境を整備するなど、プレーヤーの快適性向上にも努めてまいりました。

以上の結果、3ゴルフ場を合わせた利用者数は、前期比24,372人増加の146,465人となり、売上高は前期比205,262千円増加の1,071,819千円、営業利益につきましては、131,186千円（前年同期は40,301千円の損失）となりました。

(ホテル事業)

九州の『ホテルブランカ』、『ホテルヴェルデ』におきましては、それぞれのホテルがオフィシャルホテルとしての魅力を、より積極的にお客様にご案内し、利用獲得に繋げるよう努めてまいりました。

まず、宿泊部門におきましては、遊園地入園無料やゴルフ場回り放題プランなど、オフィシャルホテルならではの宿泊セットプランを多数作成し、宿泊者獲得に努めました。また、修学旅行獲得につきましては、受入態勢を確立した結果、大変好調に獲得できました。

料飲部門におきましては、宿泊者の夕食利用に向け、2食付きの特典を強化し獲得を図りました。さらには、利用者の満足度向上のため、熊本県の郷土料理を加えた食事メニューを投入したほか、『ホテルヴェルデ』におきましては、デリバリー・テイクアウト料理の提供及び焼肉のたれ・ステーキソースの販路の大幅な拡大等による売上獲得に努めました。

また、『ホテルブランカ』におきましては、夕食内容の統一化により、会場の効率化、人件費及び食材費削減に取り組みました。そのほか、今回初めて、遊園地のプールご利用のお客様に対して、レストランによる軽食・飲料のテイクアウト販売を実施し、売上増大に繋げました。

宴会部門につきましては、新型コロナウイルス感染症による宴会需要の大幅な落ち込みの中、『ホテルヴェルデ』主催として、人気の「純烈ディナーショー」や地元出身アーティストによる「弥栄クリスマスディナーショー」の開催を行ったほか、食のイベント「ローストビーフ&ズワイ蟹祭り」を7日間実施いたしました。年末には、毎年好評をいただいておりますおせち料理の販売を行い、売上確保に努めました。

また、施設面におきましては、両ホテルの全客室のルームキーを非接触型のタッチ式カードキーに変更し、お客様の接触機会の減少による安全性と利便性の向上に取り組みました。さらには、『ホテルヴェルデ』の露天風呂に「竹あかり」を設置し、景観改善に取り組みました。

なお、生損保代理店業務を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けない業務へ新たに2名の保険資格者を投入し、保険獲得の拡大を図りました。

以上の取り組みの結果、新型コロナウイルス感染症の落ち着きに応じては、個人客及び団体客の増加傾向も見られましたものの、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は、前期比77人減少の37,515人となり、売上高は前期比23,228千円増加の710,163千円となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、遊園地やスキー場をはじめとする、大規模レジャーエリアのオフィシャルホテルとしての強みを最大限にPRして、フルエンジョイプランや岩見沢市の宿泊支援サービス（ザワ割）の販売促進ならびにどうみん割の活用による宿泊客の獲得を図りました。

また、料飲部門におきましては、グランドメニューの刷新やお客様のニーズに合わせた各自盛料理による新しい宴会プランなど、新たな魅力の発信に努め、売上拡大を図りました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、2020年7月から8か月間をかけての大規模改修を経て、2021年3月にリニューアルオープンしており、好評な日帰り入浴のPRに加え、日本遺産「炭鉄港」にちなんだ「黒ダイヤ酢豚」などの新たなメニュー提供により、集客拡大を図りました。

以上のような取り組みを鋭意行いましたが、新型コロナウイルス感染症に伴う利用制限等の影響により、コロナ禍以前の宿泊者数までの回復には至らず、『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』の宿泊者数は前期比3,668人増加の14,905人となり、売上高は前期比55,698千円増加の318,474千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前期比3,591人増加の52,420人となり、売上高は前期比78,927千円増加の1,028,638千円、営業損失は333,158千円（前年同期は417,342千円の損失）となりました。

(不動産事業)

不動産事業における賃貸収入につきましては、一部テナントの賃料改定を行ったことに伴い増収となり、売上高は前期比6,300千円増加の170,777千円となり、営業利益につきましては、前期比3,683千円増加の113,175千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務は、新発電所の稼働に伴う受託などで堅調に推移いたしました。客土用土の取引減少のほか、建設資材のコールサンドやボゾテックの販売が落ち込み、売上高は前期比1,907千円減少の328,381千円となり、営業利益は前期比24,039千円減少の55,748千円となりました。

(注) セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記すべてのセグメント利益合計349,704千円に、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む314,723千円を差し引いた34,981千円が当連結会計年度の営業利益となります。

2)次期の見通し

当社グループにおきましては、目下、このコロナ禍における安全安心なレジャー事業の推進に努めつつ、これまでとは視点を変えた付加価値の創造と追求に取り組み、新たな時代に向けた顧客ニーズの喚起を図るべく、日々邁進してまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、まず1月に冬季イルミネーションイベント「ワンダーイルミネーション」を開催し、広大な遊園地を舞台に、100ヶ所以上のごたえあるイルミネーションスポットを展開し、幻想的な世界をお楽しみいただきました。

春のイベントにつきましては、3月より、「きかんしゃトーマスとなかまたち STEAM (スチーム) アドベンチャー ～今日からキミもエンジニア～」を開催いたします。未就学児に絶大な人気を誇るトーマスやなかまたちと一緒に、様々な装置を用いたミッションにチャレンジを繰り返すことで、遊びながら学べる体験型の教育イベントとなっております。

また、「仮面ライダーリバイス スペシャルステージ」を開催し、現在TV放映で活躍中の「仮面ライダーリバイス」をはじめ、今も人気の高い歴代仮面ライダーも参戦いたします。日本最大級の屋外ステージ「グリーンスタジアム」を舞台に、炎や火薬の特殊効果はもちろん、巨大LEDスクリーンによる映像演出やバイクアクションも加わり、まさに大迫力のアクションステージを展開いたします。

施設面におきましては、ゴールデンウィークに向けて、新規アトラクション導入を行うほか、期間限定施設「宝石さがし」も展開するなど、盛りだくさんのイベント開催と合わせ、遊びつくせないほど魅力満載の遊園地をPRしてまいります。

そのほか、3月よりマタニティ割引制度を導入し、これからも幅広いお客様にご利用いただけるよう各施策に取り組んでまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春の遊園地オープンから、「鬼滅の刃」、「仮面ライダーリバイス」、「デリシャスパーティ♡プリキュア」、「暴太郎戦隊ドンブラザーズ」など、話題性の高いキャラクターショーを展開いたします。

また、新規アトラクション「ファイヤーファイター (仮称)」ならびに「シューティングトレイン (仮称)」の導入を行い、更なる集客拡大を図ります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、スポーツクラブや自衛隊訓練等の団体獲得に加え、バス会社と連携を図り、独自のスキースクールを開催するなど、更なる利用促進を図ってまいります。

『いわみざわ公園管理』におきましては、引き続き指定管理者として適切な管理を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年に続いて昨年中止となりました、年2回の「ローズフェスタ」の開催や、『色彩館』におけるミニコンサートや各種展示会等のイベント開催にも鋭意取り組んでまいります。

また、第39回全国都市緑化北海道フェア (メイン会場・北海道恵庭市) の協賛会場として参加し、集客に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、3ゴルフ場の持つスケールメリットを活かし、オフィシャルホテルをセットとした新たなリゾートプランを展開し、幅広いエリアからの顧客獲得にも注力してまいります。

また、自動精算機の導入を行い、感染症予防対策の一環としての混雑緩和とともに、お客様の利便性向上を図ってまいります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、好評なオープンコンペに加え、ペアマッチ方式のロングランコンペを開催することで、初心者から上級者まで幅広い集客を図ります。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、メンバー限定の特典付与や特別コンペ開催などにより、メンバーとしてのステータスを向上させて、利用促進を図るとともに、若者向けプランや早朝スループレープランなど、柔軟にきめ細やかなプランを造成し、ビジター客の利用拡大を図ってまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、オフィシャルホテルとしての強みを最大限に活かした営業戦略を継続していくとともに、これまでの既成概念を払拭し、適宜業務改善による経営効率化を図り、それぞれのホテルがその特色を打ち出すことで、お客様の利用拡大を図ってまいります。なお、より多くのお

お客様にご利用いただけるように繁忙期間のキャンセルポリシーの見直しを行い、予約の獲得につなげてまいります。

また、修学旅行の予約状況が順調に推移しており、受入態勢を万全なものとして、今後の継続実施に繋がるよう努めてまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、遊園地やプール、ゴルフ場に隣接する抜群のロケーションを背景に、遊園地利用のお客様やゴルフプレーヤーをはじめ、お客様のあらゆるニーズに対応できる多様な宿泊プランの宣伝に努めます。また、遊園地を望む中庭でのバーベキューや色々な味が楽しめる鍋バイキングをさらに改善していき、より顧客満足度の高い食事の提供を目指してまいります。

さらに、レストランにおきましても、宿泊客の夕食会場使用変更を行い、遊園地利用客の取り込みを図るとともに、プール営業期間の飲食売上拡大に向けて取り組んでまいります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、まず宿泊部門におきまして、遊園地やゴルフ場のご利用者に向けた、オフィシャルホテルの強みを活かしたオリジナリティのあるプランのPRにより集客拡大を図ってまいります。

料飲部門におきましては、地元顧客ならびに遊園地利用客に対してのランチメニューの改善に取り組んでまいります。さらには、旅の思い出となる朝夕食を一層充実させてまいります。加えて、過去の法事・慶事の実施データを活かしたダイレクトセールスによる集客に努めます。

宴会部門におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を見極めつつ、「ローストビーフ&ズワイ蟹まつり」、「秋の大収穫祭」及び「日本酒やワインのイベント」など、ここでしか味わえない、季節毎の魅力あるイベントを開催してまいります。

婚礼部門におきましては、ご来館いただいた対象者の情報収集から随時実施の試食会利用の流れを強化し、ヴェルデ婚の強さをしっかりPRして、決定に結び付けてまいります。

『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地やスキー場を中心とするリゾートホテルとして、お客様の多様なニーズに応えるとともに、地域に根差したホテルとして、あらゆる場面でご利用いただけるよう、更なる魅力の増大に努めてまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、遊園地やスキー場とのセットプランを柱に、ビジネスプランやファミリープランに特典を付与してPRするなど、宿泊客の利用拡大を図ります。

また、新たな料飲メニューの提供に注力し、顧客獲得を図ってまいります。

『北村温泉ホテル』におきましては、最大の魅力である「源泉掛け流し43℃の名湯」を強く打ち出しながら、女性客にターゲットとしたオリジナルプラン造成により集客力を高めてまいります。

そのほか、地元の新鮮野菜などを中心とした、魅力ある売店もPRすることで、リピーターづくりを促進してまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、新たなテナント誘致により、一層の収益基盤の安定化を図るとともに、グリーンランドリゾートエリア全体の更なる活性化に努めてまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務の着実な受託に努めてまいります。また、ポゾテックやコールサンド等の建設資材販売のほか、各種工事受注を積極的に推進し、売上拡大を図ってまいります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい。」のキャッチコピーのもと、スタッフ一同、ご利用されるお客様に心ゆくまで楽しんでいただき、十分に満足していただけるよう、日々の事業活動に取り組んでおります。

2022年12月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの新たな変異株による感染の急拡大を受け、2022年1月にまん延防止等重点措置が九州各県で適用となり、不要不急の外出・移動の自粛要請、飲食店等への営業時間短縮要請やイベント等の開催制限がある中、消費者の行動や意識の変化を含めて、現時点では適正かつ合理的な算定が困難であるため未定としております。

今後の動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、19,465,740千円（前連結会計年度比1,729,926千円減少）となりました。

流動資産は、1,117,048千円（前連結会計年度比128,616千円増加）となりました。これは主に、その他（未収法人税等、未収消費税等）が減少したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金が増加したことによるものであります。

固定資産は、18,348,691千円（前連結会計年度比1,858,543千円減少）となりました。これは主に、建物及び構築物、機械装置及び運搬具、繰延税金資産が減少したことによるものであります。

流動負債は、5,474,329千円（前連結会計年度比1,060,445千円増加）となりました。これは主に、営業未払金、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、4,936,196千円（前連結会計年度比1,291,048千円減少）となりました。これは主に、長期借入金、長期預り金が減少したことによるものであります。

純資産は、9,055,214千円（前連結会計年度比1,499,324千円減少）となりました。これは主に、利益剰余金が減少したことによるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ215,172千円増加し、691,486千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、950,570千円（前年同期は624,383千円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失となったものの、減価償却費及び減損損失の計上や仕入債務の増加、法人税等の還付によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、194,366千円となり、前年同期比2,807千円の支出増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、541,031千円（前年同期は941,514千円の収入）となりました。これは主に、短期借入金が純増したものの、長期借入金の返済を行ったことによるものであります。

項目	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	950,570	△624,383	1,574,953
投資活動によるキャッシュ・フロー	△194,366	△191,559	△2,807
財務活動によるキャッシュ・フロー	△541,031	941,514	△1,482,545

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

また、内部留保金の用途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。

以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき2円となる予定であり、中間配当金2円を含めると、年間配当金は1株につき4円となる予定であります。

なお、次期の配当金につきましては、2022年12月期の業績予想を未定とすることから配当予想につきましても未定とさせていただきます。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の製造・販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部ガスホールディングス株式会社（2021年4月1日付で西部瓦斯株式会社から商号変更）につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.38%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内2店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内6店舗、園内売店の内2店舗、園内施設のうち2施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地(北海道)	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。
いわみざわ公園（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、いわみざわ公園の運営管理業務を行っております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

<不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

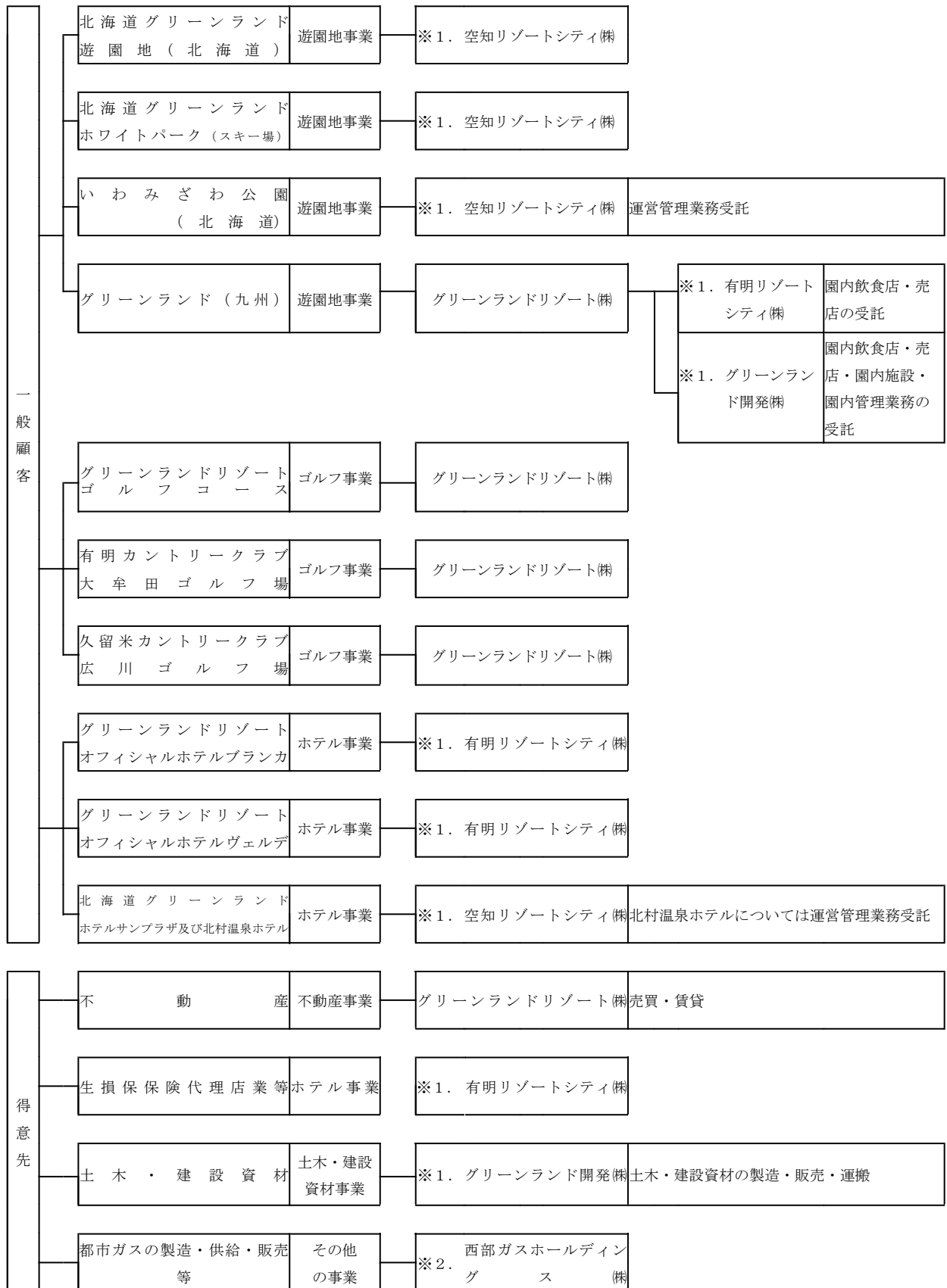
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

都市ガスの製造・供給・販売等	西部ガスホールディングス株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。
----------------	--

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

4. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	476,314	691,486
受取手形及び売掛金	223,221	274,419
商品	44,405	44,816
原材料及び貯蔵品	45,040	47,957
その他	203,194	61,720
貸倒引当金	△3,744	△3,352
流動資産合計	988,431	1,117,048
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,683,748	12,345,336
減価償却累計額	△10,301,787	△10,508,503
建物及び構築物(純額)	3,381,961	1,836,833
機械装置及び運搬具	3,792,279	3,800,175
減価償却累計額	△3,219,869	△3,327,982
機械装置及び運搬具(純額)	572,410	472,192
土地	14,917,042	14,921,670
リース資産	49,782	27,708
減価償却累計額	△27,433	△27,708
リース資産(純額)	22,348	-
その他	1,260,383	1,280,373
減価償却累計額	△1,121,582	△1,169,227
その他(純額)	138,801	111,146
有形固定資産合計	19,032,563	17,341,842
無形固定資産		
その他	213,028	202,914
無形固定資産合計	213,028	202,914
投資その他の資産		
投資有価証券	270,437	266,528
繰延税金資産	429,417	276,847
退職給付に係る資産	179,489	184,989
その他	83,399	76,669
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	961,643	803,934
固定資産合計	20,207,235	18,348,691
資産合計	21,195,666	19,465,740

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	62,879	96,283
営業未払金	92,200	190,763
短期借入金	3,898,696	4,669,863
未払金	246,535	322,148
未払法人税等	900	76,751
その他	112,672	118,519
流動負債合計	4,413,884	5,474,329
固定負債		
長期借入金	3,569,063	2,359,156
長期預り金	2,516,422	2,435,222
退職給付に係る負債	10,803	12,959
その他	130,954	128,858
固定負債合計	6,227,244	4,936,196
負債合計	10,641,128	10,410,525
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,577,938	80,106
自己株式	△3,036	△3,036
株主資本合計	10,522,837	9,025,005
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,700	30,208
その他の包括利益累計額合計	31,700	30,208
純資産合計	10,554,538	9,055,214
負債純資産合計	21,195,666	19,465,740

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
売上高	4,616,869	5,754,115
売上原価	4,540,861	5,171,031
売上総利益	76,007	583,084
販売費及び一般管理費	537,941	548,103
営業利益又は営業損失(△)	△461,933	34,981
営業外収益		
受取利息	2	6
受取配当金	8,480	9,053
受取賃貸料	4,921	4,358
受取保険金	25,360	15,451
助成金収入	106,471	178,204
雑収入	14,386	7,737
営業外収益合計	159,622	214,811
営業外費用		
支払利息	43,082	43,214
雑損失	2,755	3,728
営業外費用合計	45,838	46,942
経常利益又は経常損失(△)	△348,149	202,850
特別利益		
固定資産売却益	3,206	2,136
受取保険金	10,839	56,134
助成金収入	29,219	-
その他	2,723	-
特別利益合計	45,989	58,271
特別損失		
固定資産除売却損	32,654	768
減損損失	※1 284,257	※1 1,484,772
投資有価証券売却損	5	-
投資有価証券評価損	-	1,155
臨時休業による損失	※2 134,981	-
災害による損失	31,031	46,156
特別損失合計	482,928	1,532,852
税金等調整前当期純損失(△)	△785,089	△1,271,731
法人税、住民税及び事業税	11,858	51,594
法人税等調整額	△163,410	153,830
法人税等合計	△151,551	205,425
当期純損失(△)	△633,537	△1,477,157
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△633,537	△1,477,157

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
当期純損失(△)	△633,537	△1,477,157
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19,378	△1,492
その他の包括利益合計	△19,378	△1,492
包括利益	△652,916	△1,478,649
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△652,916	△1,478,649
非支配株主に係る包括利益	-	-

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自2020年1月1日 至2020年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	2,283,838	△3,036	11,228,737
当期変動額					
剰余金の配当			△72,361		△72,361
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△633,537		△633,537
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△705,899	—	△705,899
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,577,938	△3,036	10,522,837

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	51,079	51,079	11,279,817
当期変動額			
剰余金の配当			△72,361
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△633,537
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△19,378	△19,378	△19,378
当期変動額合計	△19,378	△19,378	△725,278
当期末残高	31,700	31,700	10,554,538

当連結会計年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,577,938	△3,036	10,522,837
当期変動額					
剰余金の配当			△20,674		△20,674
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,477,157		△1,477,157
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	△1,497,831	-	△1,497,831
当期末残高	4,180,101	4,767,834	80,106	△3,036	9,025,005

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	31,700	31,700	10,554,538
当期変動額			
剰余金の配当			△20,674
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,477,157
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△1,492	△1,492	△1,492
当期変動額合計	△1,492	△1,492	△1,499,324
当期末残高	30,208	30,208	9,055,214

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△785,089	△1,271,731
減価償却費	469,143	395,545
減損損失	284,257	1,484,772
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△12,713	△5,499
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,717	2,155
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	293	△392
受取利息及び受取配当金	△8,482	△9,060
支払利息	43,082	43,214
受取保険金	△36,199	△71,586
助成金収入	△135,690	△178,204
投資有価証券売却損益 (△は益)	△176	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	1,155
固定資産売却益	△3,206	△2,136
固定資産除却損	32,654	768
売上債権の増減額 (△は増加)	△29,922	△51,096
たな卸資産の増減額 (△は増加)	15,875	△3,328
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△53,163	53,163
仕入債務の増減額 (△は減少)	△58,940	131,967
未払金の増減額 (△は減少)	△96,714	△4,420
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△85,837	96,208
その他	△60,992	30,851
小計	△520,105	642,346
利息及び配当金の受取額	8,482	9,060
利息の支払額	△42,879	△42,853
保険金の受取額	36,199	71,586
助成金の受取額	135,690	178,204
法人税等の支払額	△241,771	△6,832
法人税等の還付額	-	99,058
営業活動によるキャッシュ・フロー	△624,383	950,570
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△186,342	△190,974
有形固定資産の売却による収入	4,524	3,128
無形固定資産の取得による支出	△10,954	△5,686
投資有価証券の売却による収入	378	-
その他	833	△833
投資活動によるキャッシュ・フロー	△191,559	△194,366
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	835,000	895,000
長期借入れによる収入	1,680,000	40,000
長期借入金の返済による支出	△1,388,125	△1,373,740
長期預り金の受入による収入	2,600	4,800
長期預り金の返還による支出	△112,580	△86,000
リース債務の返済による支出	△2,543	△403
配当金の支払額	△72,837	△20,687
財務活動によるキャッシュ・フロー	941,514	△541,031
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	125,571	215,172
現金及び現金同等物の期首残高	350,742	476,314
現金及び現金同等物の期末残高	476,314	691,486

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関しては、今後の収束時期や影響の程度を合理的に予測することは困難ではあるものの、新型コロナウイルスワクチンの追加接種をはじめ、様々な景気刺激策の実施が予定されていることから、翌連結会計年度においても影響は一定期間継続するものの、徐々に回復していくと仮定して繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

(連結損益計算書関係)

※1. 減損損失

前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、北海道のホテル事業における一部の固定資産について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響拡大・長期化を踏まえ、九州のホテル事業等における固定資産について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

※2. 臨時休業による損失

前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、政府及び各自治体から2020年2月以降に出されたイベント開催の中止、延期、規模縮小や外出自粛の要請及び緊急事態宣言等を受け、九州の遊園地をはじめとする当社グループの一部事業所で、ゴールデンウィークを含む期間におきまして臨時休業や営業時間の短縮を実施いたしました。このため、臨時休業期間中の遊園地事業及びホテル事業において発生した固定費(人件費・減価償却費など)及び遊園地事業において発生したイベント中止に係る費用を臨時休業による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの損益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト						調整額 (注) 1	連 結 財務諸表 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建設資材 事 業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,305,835	866,557	949,711	164,476	330,289	4,616,869	-	4,616,869
セグメント間の内 部売上高又は振替高	3,881	11,265	20,714	11,491	39,169	86,523	△86,523	-
計	2,309,717	877,823	970,426	175,967	369,458	4,703,392	△86,523	4,616,869
セグメント利益又は 損失 (△)	107,574	△40,301	△417,342	109,492	79,788	△160,788	△301,144	△461,933

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△296,240千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業損失と一致しております。

当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト						調整額 (注) 1	連 結 財務諸表 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建設資材 事 業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,154,497	1,071,819	1,028,638	170,777	328,381	5,754,115	-	5,754,115
セグメント間の内 部売上高又は振替高	4,769	11,227	23,002	11,548	2,629	53,176	△53,176	-
計	3,159,267	1,083,047	1,051,641	182,325	331,011	5,807,292	△53,176	5,754,115
セグメント利益又は 損失 (△)	382,751	131,186	△333,158	113,175	55,748	349,704	△314,723	34,981

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△316,071千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり純資産	1,021.00円	875.96円
1株当たり当期純損失(△)	△61.29円	△142.89円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	△633,537	△1,477,157
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	△633,537	△1,477,157
期中平均株式数 (千株)	10,337	10,337

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

役員の異動

1. 代表者の異動
該当事項はありません。
2. その他の役員の異動
 - (1) 新任取締役候補
取締役 最上 剛 (現 肥銀リース株式会社 代表取締役社長)
※最上剛氏は、社外取締役候補であります。
 - (2) 退任予定取締役
取締役 上野 豊徳 (現 当社社外取締役、肥銀リース株式会社 会長)
3. 就退任予定日
2022年3月30日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

最上 剛 (モガミ ツヨシ)	1956年6月18日生	65歳
1980年	4月	株式会社肥後銀行入行
2010年	6月	同行執行役員融資部長
2011年	6月	同行取締役執行役員与信管理部長
2013年	6月	同行取締役常務執行役員
2015年	6月	同行取締役専務執行役員
2015年	10月	株式会社九州フィナンシャルグループ取締役
2016年	5月	株式会社肥後銀行取締役専務執行役員 (代表取締役)
2018年	4月	株式会社九州フィナンシャルグループ取締役専務執行役員
2020年	4月	肥銀リース株式会社副社長執行役員
2020年	6月	同社代表取締役社長 (現任)